



人に学び・物に学び・自然に学ぶ

三室中だより

《学校教育目標》 令和6年度第5号 令和6年8月28日(水)発行
自ら学ぶ生徒の育成 心豊かな生徒の育成 健康でたくましい生徒の育成

さいたま市立三室中学校
〒336-0912 ぼんぼ
さいたま市緑区馬場1-38-2
学校 048-874-2331
FAX 048-810-1125
相談室 048-876-1731
<http://mimuro-j.saitama-city.ed.jp>

それぞれの夏

校長 廣江 剛

39日間の夏休みが終わりました。この夏も酷暑が続きましたが、県大会等での三室中生の活躍は素晴らしく、陸上競技部の香川さんが、男子砲丸投げ1位で関東・全国大会出場。中村さんが女子棒高跳び第1位、同じく浦山さんが第3位で関東大会に出場し、中村さんは関東大会でも大会新記録で1位(2連覇)となりました。ソフトボール部は、県で2枠しかない関東大会出場枠をめぐる壮絶な決定戦を制し、悲願の関東大会出場を果たしました。昨今、私立学校はもとより、部活動地域移行化の影響で競技によっては、クラブチームが上位を占める傾向もある中、本校が、生徒・顧問・保護者・外部指導者の厚い信頼関係のもと、素晴らしい成果を残せたことは、とても価値のあることと考えています。本当におめでとうございました。



また、この夏はパリでオリンピックが開催され、これからパラリンピックが開催されます。日本人のメダルラッシュが相次いでテレビ放映され、SNSもオリンピック関連の動画が賑わいをみせていました。パリオリンピックは、「広く開かれた大会」というコンセプトのもと、大会期間中に実際に選手が走ったコースで一般が参加できる市民マラソンが開催され、オリンピック史上初めて男女の出場選手数が等しくなり、開会式がセーヌ川やエッフェル塔を舞台としたスタジアムの外で行われるなど、数多くの画期的な新しい取り組みが施された大会となりました。まさに、新しい時代の到来を感じさせるオリンピックでした。

一方、私はこの夏、妻の実家がある長崎に帰省し、十数年ぶりに原爆資料館を尋ねました。そこである展示物を前に足が止まり、動けなくなりました。それは、角田京子さんという方の「工場日記」という展示物でした。角田さんは、長崎高等女学校の裁縫の教師で、当時担当していた3年生の生徒は街の兵器製作所の工場に動員され、角田さんら教師は引率、現場監督をしていました。8月9日、角田さんは、外で公務があり工場には行かず、電車の駅で原爆に遭遇しました。運よく命が助かった角田さんは、生徒たちの身を案じ、燃え盛る炎の中工場に向かい、夜通し負傷した生徒の看病に当たりました。そして、監督の教師3名のうち生き残ったのが自分だけだと知ると、「最後の果たすべき勤め」が残されているような気がして、3年生の生徒の安否を確認するため、市内外を歩き回りました。「工場日記」には、安否が確認できた生徒の名前と「健在」「負傷」「死亡」の状態や収容先の病院名が走り書きで記されていました。原爆投下から10日後、角田さんは突然高熱を出して倒れ、病に伏せます。そして翌月9月7日、31歳の若さで教え子の名前を呼びながら亡くなったということです。病名は原爆症でした。

過去、そして現在とそれぞれの夏が確かに存在していたことを実感させられた夏休みとなりました。来年、日本は戦後80年を迎えます。